



 本部より

「新・生物多様性国家戦略案」に関する提言

平成14年3月11日

環境大臣 大木 浩 殿

社団法人日本動物学会会長 星 元紀

社団法人日本動物学会は、新・生物多様性国家戦略案
 に対して以下のような提言を致しました。

はじめに

我々の住むこの地球には果たしてどれほど多くの生物

が生きているのだろうか。研究者により様々な見積もり
 がなされている。少なめの見積もりでは約1300万種類の
 生物が推定され、その中では名前がついているのは高々
 13%程度という事になる。多めの推定では数億種もある
 と報告されており、このことは、我々は、現在地球上
 に棲んでいる生物種の殆どのものを知らないということ
 を示している。そして、残念な事に、我々人類の日常的
 な活動が原因の一つとなって、それらの中から一日に
 100種以上もの生物種が絶滅しているとも考えられてい
 る。今われわれは、地球に住む全ての生物は互いに影響
 し合い、互いの生存環境の構築に深く関わり合い依存しな
 がら生きていることを知っている。そうした相互に築き
 上げられた網の中から、今も多くの名も知らぬ生物が消
 えているのである。地球に棲む全ての生物は、長い進化
 の果てに、現在の地球に適応し得るあらゆる可能性を体
 現しているはずであり、そこにはあらゆる遺伝的可能性
 が蓄積されていると思われる。しかし、これら貴重な遺
 伝情報はその生物種と共に、日々、加速度的に消滅して
 いるのである。日本動物学会は、こうした「生命の可能

第73回日本動物学会金沢大会 一般研究発表の専門分野区分表

- | | | |
|---|---|--|
| A. 分類・系統
1) 無脊椎動物
2) 脊椎動物
3) 進化・多様性
4) その他 | D. 生理
1) 心臓調節
2) 呼吸・排出
3) 感覚
4) 神経興奮・神経伝達
5) 脳・中枢
6) 体色変化
7) 体液調節・膜輸送
8) 生体防御・免疫
9) ニューロエソロジー
10) 生物時計
11) 個体運動・バイオメカニクス
12) その他 | 7) 変態
8) ホメオスタシス
9) 行動とホルモン
10) その他 |
| B. 形態・細胞
1) 原生動物
2) 多細胞動物
3) 培養細胞
4) 細胞骨格・細胞外基質
5) 細胞周期・細胞分裂・細胞運動
6) 鞭毛・纖毛運動
7) 筋収縮
8) 細胞内シグナル伝達
9) その他 | E. 生化学
1) 糖質
2) 脂質
3) 天然物
4) 核酸・タンパク質合成
5) 酵素・タンパク質分子構造
6) 代謝
7) 膜・エネルギー変換
8) その他 | G. 遺伝
1) 遺伝子・染色体
2) 遺伝子発現
3) 集団遺伝
4) 光修復・放射線
5) その他 |
| C. 発生
1) 配偶子形成・減数分裂
2) 受精
3) 卵割・初期発生
4) 形態形成
5) 細胞分化
6) 再生
7) アポトーシス
8) 老化
9) その他 | F. 内分泌
1) ホルモン分子・受容体
2) 分泌器官
3) ストレス
4) 生殖とホルモン
5) 成長とホルモン
6) 発生・分化とホルモン | H. 生態・行動
1) 個体群
2) 異種間関係・群集
3) 行動
4) 生物社会
5) 環境と生物
6) 生活史
7) 生物分布・生物地理
8) その他 |
| | | I. その他
1) 科学史
2) 研究技術
3) モデル動物
4) 理科教育
5) その他 |

性」が日々失われる状況を深く憂慮するものであるが、おそらく尋常の保全活動ではこれらを食い止める事は不可能であろう。ならば、「未発見種も含めた地球上の全生物を網羅し、それらの生物情報の包括的記録と試料保存の試みを、たとえ、今はその効果が僅かなものであっても直ちに始めること」は、我々の生物戦略上の最重要課題であると考えている。勿論、減少の危機に晒されている既知の生物種の保全に力を注ぐ必要があることは言うまでもない。

新戦略案について

第1部では、第1節の生物多様性の危機の構造において、地球には我々の知る何十倍以上もの数の見知らぬ生物が存在しているが、それらは、それらが持つ貴重な生物情報と共に日々絶滅し失われていることを重大な「危機」の一つとして理解する必要がある。また、これに関して我々は全く何の対策も取り得ていないことを認識しなければならない。第2部においては、この失われつつある貴重な生物情報は、まさに人間生存の基盤に深くかわることを述べるべきであろう。

第3部の、3つの基本的施策のうち、たとえば第1の保全の強化の中に、「日々失われつつある多くの生物種一つ一つの生物情報の包括的収集を開始すること。これは、第4部第3章で述べている基盤的施策と同時進行か、むしろ、それよりも早くに、手探りでも、まず始めること。」を盛り込む。第2節の基本的視点では、日々失われる「生命の可能性」に危機感をもち、現在の多様な生物情報を未来に残すために、一刻も早く収集活動を開始することが何にもまして重要な事であるとの認識を述べる。

第3部第2章では、主要テーマとして「多数の未記載種の包括的記載と収集及び保全」を取り上げるべきであろうが、未記載種をどのように見出し、その生物情報をどのように記載していくかは全く手探りの状態であるかもしれない。奥山自然地域や池沼・河川・浅海・深海域の水中・土中、島嶼地域等を当初の対象フィールドとし、特定の地区を指定し集中的な探索を行なう事業形態となるのであろうか。これに関連して、特定地区を「未記載生物種保全・調査指定地域」に指定し、そこでの人間活動を厳しく制限する事も必要であろう。

第4部の、特に第2章の横断的施策において、先の対象フィールドの選定は必ず省庁横断的に、未記載種の網羅的調査・保全に最も緊急かつ最適な地区を、他のどの

国策にも優先して選定する事が重要である。また調査・保全活動自体も、特に遺伝資源の調査・収集と解析、その保存・蓄積の為に、各省庁所管の調査研究機関、試験場、プロジェクト等において先行している種々の事業との緊密な協力が不可欠である。

第4部第3章の基盤的施策においては、特に調査研究・情報整備と国際的取組において具体的な記述が必要となる。

膨大な数の未記載種を含む地球上の全ての生物の包括的な生物情報の記載と、それらの収集と解析・保存を目的とする事業は、これまでにない相当大規模な組織の構築を考える必要がある。まず、国土のあらゆる場所において、これまでに未記載・記載の生物を漏れなく探索し、収集し、不明の生物は不明のまま、それらの生物としてのあらゆる情報を可能な限り収集・解析し、DNA情報はもとより、配偶子、胚、種子、個体を保管する活動を始め、いずれはその活動を地球規模に拡大する必要がある。事業活動は、その対象の膨大さから、恐らく5年から10年の単位で何期にも渡る大規模長期間の戦略事業となるであろう。そこでは、特に未記載種の調査・解析方法の新規開発も含めた基礎研究部門、実際に調査・収集を行なう生物群等の専門チーム、収集試料の形態・生理・薬理・蛋白質・遺伝子等の各解析部門、データベース部門、DNAから個体までの試料保存部門、プロジェクト要員の育成に当たる教育部門等を備える総合センター「ガイアリストセンター (GaiaList Center)」の整備が必要であろう。また、センターの活動の中でも重要な基礎研究部門や調査・収集チームの活動基盤を支えるためには、分類・生態学関連分野の基礎研究の人的・組織的基盤を全国的に拡充・建て直す施策を直ちに開始する事も必要である。このセンターは単なる研究組織とは異なり、あくまでも情報・試料の蓄積を主目的としたスペシャリストを擁する実務的なセンターである。このセンターで集められ蓄積される情報を積極的に世界に公開することで、遺伝子利権をめぐる国際的な動きのなか、とりわけ途上国での遺伝子資源の囲い込み国策が行われる傾向があるなかで、生物情報の国際的共有に向けての理想的な国際ルール作りを実現するための手本ともなり、わが国が将来において、この領域で国際的に主導的な役割を果たす事も期待される。そのためには、いずれ国際協力部門等も設置される事になろう。本センターが、先行する幾つかの国際プロジェクトとの連携や、アジア諸国やその他の開発途上国との協力活動の中心として活

動する事も期待される。以上のような拠点作りを行なうためには、国民に対するより一層の教育・普及啓発事業を行い、国家的事業としての理解を得ていく必要がある。また、ボランティアや NGO との連携を深めより効果的な協力活動を得るためには、彼らを対象としたトレーニングコースの定期的な開設も考えられる。こうした目的のためにセンターに広報部門・教育部門を置く等、総合的な国家プロジェクトセンターとしての位置付けが必要であると思われる。

動物学女性研究者懇談会アンケート結果のお知らせ

2001年の大会にて開催しました第1回動物学女性研究者懇談会についてのアンケートを実施していましたが、3月末までに169名から回答をお寄せいただきました。

ご協力をありがとうございました。新入会員からのアンケートは継続して受付しておりますが、現在までのアンケート結果をまとめ、ホームページに掲載しました。アンケート結果

http://www.soc.nii.ac.jp/zsj/iinkai/shourai/women_results.html

回答のまとめの最後には、回答への意見欄を設けましたので、ご覧いただいた後の意見をお寄せください。

なお、郵送をご希望の方は学会本部までご連絡ください。

懇談会ワーキンググループ・動物学推進将来計画委員会

XIXth INTERNATIONAL CONGRESS OF ZOOLOGY のお知らせ (FIRST ANNOUNCEMENT)

2004年8月23 - 27日の日程で北京（中華人民共和国）において XIXth INTERNATIONAL CONGRESS OF ZOOLOGY が開催されます。SCIENTIFIC PROGRAMME 及び PLENARY SESSIONS は下記が予定されております。Second announcement 以降の情報が必要な方は2002年12月30日までに REPLY SHEET を問い合わせ先までお送りください。オンラインでの REPLY SHEET 送付も可能です（<http://www.icz.ioz.ac.cn/REPLYSHEET.htm>）。詳細はウェブサイト（<http://www.icz.ioz.ac.cn>）をご覧ください。

SCIENTIFIC PROGRAMME

The scientific programme will include plenary sessions,

symposia, workshops, special-interest group meetings, as well as contributed papers and poster sessions. The programme will probably be divided into the following sections:

- (A) Palaeontology
- (B) Systematics and Evolution
- (C) Zoogeography
- (D) Morphology and Anatomy
- (E) Animal Behaviour
- (F) Animal Ecology
- (G) Conservation Biology
- (H) Physiology
- (I) Health and Diseases
- (J) Comparative Immunology
- (K) Reproduction, Development and Genetics
- (L) Environmental Impact Assessment
- (M) Bioethics
- (N) Laboratory Animal
- (O) Zoological Teaching and Education
- (P) The Fate of National Zoos
- (Q) Philosophy of Zoology
- (R) Veterinary Medicine

Persons wishing to organize symposia, workshops or special-interest group meetings to submit contributed papers or to present posters under the above sections should write to the Secretary General with details.

A proceedings volume of mini-papers (2 A4 pages for each paper briefly covering introduction, method, result and discussion) is planned. The ACTA ZOOLOGICA SINICA will publish some selective full papers.

PLENARY SESSIONS

There will be several plenary sessions and an after dinner speech during the congress. The congress is seeking suggestions about the titles of plenary sessions and speakers related to the following fields:

- (A) Impact of invasive species
- (B) Animal Cloning
- (C) Dinosaur Evolution
- (D) Origin of Metazoans
- (E) Molecular Systematic and Evolution
- (F) International Wildlife Trading and Sustainable Use
- (G) Sex Selection
- (H) Co-evolution

(I) Bioethics (After dinner speech)

REGISTRATION, HOTEL ACCOMODATION AND MEALS

The registration fee for delegates, students and accompanying persons is not yet finalized, it is likely that these will be approximately US\$350.00 /person, US\$180.00 /person and US\$50.00 /person respectively. The registration fee will cover the cost of the abstract volume, the welcome reception and some gifts. Hotels of various grades will be provided for your choice. Room prices (two beds) range from US\$40.00-120.00 per night. Conference meals, which cost about US\$25.00 per day, will be available. You are of course, free to have your own meals within or outside your hotel.

SECOND ANNOUNCEMENT BROCHURE

This will be forwarded directly to each respondent in January 2003 with details of the programme, registration, accommodation and tours. Persons wishing to receive this Second Announcement Brochure should complete and mail the REPLY SHEET to the SECRETARY GENERAL before Dec. 30, 2002.

問い合わせ先

Zhibin ZHANG, Research Professor, Secretary General XIXth International Congress of Zoology, Institute of Zoology, The Chinese Academy of Sciences 19 Zhongguancun Road, Haidian District, Beijing 100080, P.R. China

Tel: +86 10 62552368 Fax: +86 10 62619676

E-mail: icz2004@panda.ioz.ac.cn

Website: <http://www.icz.ioz.ac.cn>

お詫び

生物科学ニュース4月号(Z版)トピックスに掲載の「モースの江の島臨海実験所跡」は廣崎芳次, 木下明モースの江ノ島臨海実験所. タクサ No.11: 12-17, 日本動物分類学会(2001)に掲載されたものをもとに, 著者によりダイジェストされたものです. この点を明確にしないままに掲載したことを日本動物分類学会会長, 「タクサ」編集委員長にお詫びし, ご了解いただきました.

会員異動

所属支部番号

1. 北海道, 2. 東北, 3. 関東, 4. 中部, 5. 近畿, 6. 中国・四国
7. 九州, 8. 海外

新入会(4/10日現在)

海谷啓之(5; 565-8565 吹田市藤白台5-7-1 国立循環器病センター研究所生化学部)/佐藤賢一(5; 657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学遺伝子実験センター)/野田 健(7; 812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学農学部生物資源環境学科学動物生産科学コース畜産科学動物学教室)/前原和愛(7; 812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学生物資源環境科学府生物資源開発管理科学動物学教室)/前岡久滋(7; 812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学農学部動物学教室)/末信晶子(7; 812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学府生物科学専攻動物生理学講座)/三好孝和(7; 842-8585 佐賀県神埼郡神埼町大字尾崎4490-9 西九州大学健康福祉学研究科生物学研究室)/森田哲夫(7; 889-2192 宮崎県学園木花台西1-1 宮崎大学農学部食料生産科学科比較生理生態学研究室)/長谷川浩一(4; 487-8501 愛知県春日井市松本町1200 中部大学生物機能開発研究所)/依田昌樹(2; 981-8555 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 東北大学大学院農学研究科水圏動物生理学研究室)/竹村昌弘(3; 338-8570 埼玉県さいたま市下大久保255 埼玉大学理学部生体制御学科調節生理学研究室)/伊藤睦美(4; 424-8610 静岡県清水市折戸3-20-1 東海大学大学院海洋学研究科海洋生物学専攻中辻研究室)/食見花子(6; 739-8521 東広島市鏡山1-7-1 広島大学総合科学部脳科学研究室 広島大学大学院生物圏科学研究科)/山田 茂(3; 153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院生命環境科学系身体運動科学研究室)/後藤慎介(5; 558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻)/中村憲彦(6; 753-8512 山口市大字吉田1677-1 山口大学理学部自然情報科学科生物科学大講座発生生物学(岩尾)研究室)/梅園良彦(3; 650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町2-2-3 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター進化再生研究グループ)/植野由佳(5; 560-0043 豊中市待兼山1-1 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻徳永研究室)/大久保奈弥(3; 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学生命理工学部生体システム専攻本川研究室)/阿久津津誠(3; 230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学歯学部ハイテク・リサーチ・センター)/若林雅行(4; 930-8555 富山県富山市五福3190 富山大学理学部生物圏環境科学科(中村研究室))/浅見真紀(6; 700-8530 岡山県岡山市津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科生体分子機能科学分子生物研究室)/井上 武(3; 650-0047 神戸市中央区港島南町2-2-3 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター進化再生グループ)

所属・住所変更(4/10日現在)

鯨島道和(4→4; 433-8558 浜松市三方原町3453 聖隷クリストファー大学・看護学部・看護学科)/岩谷綱一(4→6; 753-8512 山口市大字吉田1677-1 山口大学理工学研究科自然共生科学藤島研究室)/大島(瀬戸)章子(4→3; 480-03 和光市広沢2番1号 理化学研究所, 脳科学総合研究センター, 行動遺伝学技術開発研究

チーム発達障害研究所形態学)/渡部諭史(3;164-8639 横須賀市長井6-31-1 水産総合研究センター 中央水産研究所 海区水産産業研究部)/丹羽 尚(4→5;411-8540 神戸市中央区港南島町2-2-3 理化学研究所 発生再生科学総合研究センター形態形成シグナル研究グループ)/平田 昌(5→5;560 神戸市中央区港島南町2-2-3 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター位置情報研究チーム(自然科学棟))/松本修文(7;820 北九州市若松区ひびきの2-4 九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻生物化学システム工学科)/伊勢戸 徹(7→5;226 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館)/三宅顕三(4;424-8610 静岡県清水市折戸3-20-1 東海大学大学院海洋学研究科海洋生物科学専攻中辻研究室)/池上 晋(6→6;739 東広島市鏡山1丁目3番1号 広島大学機器分析センター細胞生理化学研究室)/持田和彦(1→6;041 広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5 独立行政法人 水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所淡水増殖学講座)/都木靖彰(2→1;041-8611 北海道函館市港町3-1-1 北海道大学大学院水産科学研究科生命資源科学専攻生命機能学講座)/水波 誠(1→2;980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 東北大学大学院生命科学研究所)/山尾真史(1→5;606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科蚕糸昆虫利用学研究室)/松下智子(2→3;305-8585 つくば市御幸が丘21 山之内製薬創薬研究本部分子医学研究所ゲノム創薬研究室)/加川 尚(1→5;577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学理工学部生命学科動物遺伝学研究室)/三田雅敏(3→3;320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学理工学部バイオサイエンス学科)/若山典央(2;039-3501 仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学大学院生命科学研究所生態システム生命科学専攻千葉研究室)/小林健司(5;606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院・理学研究科・動物学教室・佐藤矩行研究室)/小川麻里(1→6;739-8528 広島県東広島市鏡山1-4-4 広島大学生物生産学部免疫生物学研究室)/山崎一憲(3→5;569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 JT 生命誌研究館)/小池 敏(3→3;300-42 新宿区西新宿3-20-2 東京オペラタワー ファルマシア株式会社グローバル開発部門薬事統括部 NDA マネージメント安全性第一研究部)/村上知里(3;930 品川区豊町4-3-16 株式会社日本海洋生物研究所技術研究部)/伊藤 宏(2→2;966 会津若松市

表町3-1 福島県立会津高等学校)/青島理人(3;230-0045 神奈川県横浜市鶴見区末広町1丁目7-22 理化学研究所横浜研究所ゲノム科学総合研究センター)/山口雅裕(3;351-0198 埼玉県和光市広沢2-1 理化学研究所政井独立主幹研究ユニット)/吉田 学(3→3;108-8639 港区白金台4-6-1 東京大学医科学研究所脳神経発生・分化分野内 科学技術振興事業団・国際共同研究事業・カルシウム振動プロジェクト)/徳岡三紀(5;606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科分子進化発生学研究室)/西村知良(5;606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科化学生態学講座)/大谷 哲(1;041-1105 北海道亀田郡七飯町字桜町478-1 北海道大学北方圏フィールド科学センター七飯淡水実験所)/本村浩之(3;169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館動物研究部動物第2研究室)/塚原伸治(5;657-8501 神戸市灘区六甲台町1の1 神戸大学大学院自然科学研究科)/湯浅 創(2→6;780-8520 高知市曙町2-5-1 高知大学・理学部・物質科学科・生体機能物質工学講座)/西山一朗(3→3;206-8511 東京都稲城市坂浜238 駒沢女子短期大学食物栄養科)/小林優子(5;565-8565 大阪府吹田市藤白台5-1 国立循環器病センター研究所・循環分子生理部)/箕浦高子(4→3;305-8572 つくば市天王台1-1-1 筑波大学生物科学系)/澤田和彦(3→6;770-8503 徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学医学部発生発達医学講座機能解剖学分野)/渡邊敏明(2→5;990-23 姫路市新在家本町1-1-12 姫路工業大学環境人間学部生活環境学科食環境解析学教室)/豊田直二(3→7;260 熊本市大江2丁目5-1 熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科)

お詫び

「生物科学ニュース5月号・No.365」Z版に入るZnewsロゴが作業上のミスにより抜けてしまいました。今後、このようなミスが起これぬように細心の注意をするとともに、お詫び申し上げます。

昭和情報プロセス株式会社

(社)日本動物学会関東支部ニュース

(<http://www.soc.nii.ac.jp/zsj/sibu/kantou/kantou.html>)

2002年 6 月 №92

●平成14年度第一回支部委員会議事録

日 時：平成14年 3 月 8 日(金) 18:00 - 20:00

場 所：上智大学 7 号館12階第四会議室

出席者：中村正久(支部長), 伊藤正則, 岩室祥一, 上村慎治, 小林哲也, 小林牧人, 菅原隆, 石龍徳, 高田耕司, 日野晶也, 服部淳彦, 松田良一, 安増茂樹(各支部委員), 窪川かおる(評議員), 和田勝(評議員)

報告：

1. 平成14年 3 月30日に早稲田大学で開催される第54回関東支部大会の準備は順調に進んでいるとの報告がなされた(中村)。発表演題数は33の予定。

審議：

1. 支部総会議事次第について審議し承認された。
2. 平成13年度決算案と平成14年度予算案が提出され審議された後、承認された。
3. 平成14年度支部主催シンポジウム企画案として「フェロモンの動物学」—他の固体の行動を引き起こす不思議な物質—(平成14年 7 月20日於：東京大学大学院総合研究科13号館1313教室) が日野企画委員より披露され、承認された。
4. 来年の第55回関東支部大会は、2003年 3 月29日(土) に青木清会員を大会長として上智大学で行われることが提案され承認された。
5. 次期支部委員・評議員選出のための選挙管理委員会(委員長：井内一郎(上智大・生命研) 委員：千葉篤彦(上智大・生命研) 長谷部孝(早大・教育・生物), 藤原宏子(日本女子大・理・物質生物) が承認された。また、選挙方法について議論がなされ、投票率を上げるため今回は料金後納にして返送代を支部負担とすることが承認された。
6. 学会本部より、関東支部委員長が自動的に学会理事となることが報告され、次期支部委員の選挙方法について意見交換が行われた。今回は従来の方法で選挙を行うが次回の選挙方法については次期支部委員の審議事項として申し送ることとした。(庶務委員)

●平成14年度関東支部総会議事録

支部総会が、2002年3月30日(土) 14時40分から早稲田大学国際会議場 3 階会議室 3 にて開催された。

議長に山内兄人会員(早稲田大・人間科学部) を選出

した後、以下のように議事が進行した。

1. 54回支部第大会長挨拶(菊山栄氏早大・教育・生物)
2. 支部長挨拶(中村正久)
3. 庶務報告(安増茂樹)：1) 関東支部会員は一般会員716名、学生会員195名、中高教員会員30名、高齢会員34名、名誉会員 2 名の合計975名(3 月26日現在)。2) 2001年の活動報告支部主催シンポジウム「動物たちの会話 - その不思議な感覚世界を探る - 」2001年 7 月21日(早稲田大学国際会議場井深記念ホール), 支部共催「日本生物教育会の細胞培養のワークショップ」2001年8月11日(東京大学駒場)。
4. 会計報告平成13年度決算案報告(伊藤正則)
5. 平成13決算監査報告蠅川会計監査(横浜市大・理) の代理として林しん治会員(横浜市大・理)：決算報告は承認された。
6. 平成14予算案提出(菅原隆)：予算案は承認された。
7. 2002年支部企画報告(日野晶也)：支部主催シンポジウムとして、「フェロモンの動物学」- 他の固体の行動を引き起こす不思議な物質—(平成14年 7 月20日) を東京大学大学院総合研究科13号館1313教室にて開催の予定。
8. 選挙管理委員の選出(安増茂樹)：選挙管理委員として井内一郎(委員長, 上智大・生命研), 千葉篤彦(上智大・生命研) 長谷部孝(早大・教育・生物), 藤原宏子(日本女子大・理・物質生物) の 4 氏の推薦があり、承認された。
9. 次回(第55) 部大会開催校の井内一郎会員(上智大・生命研) より、2002年3月29日に上智大学にて開催の予定である旨挨拶があった。(庶務委員)

●平成13年度 決算案

1. 収入の部

科 目	予算額(円)	決算額(円)
平成14年度支部会費		
第 1 回分	580,000	595,900
第 2 回分	200,000	152,800
支部大会費収入	100,000	88,000
科研費		
「研究成果公開促進費」	0	1,000,000
雑収入(利息等)	500	370
今期収入合計	880,500	1,837,070
前期繰越金	927,304	927,304
合 計	1,807,804	2,764,374

2. 支出の部

科 目	予算額(円)	決算額(円)
支部大会費	400,000	292,653
企画費	300,000	1,126,424
ニュース印刷費	160,000	90,000
旅費・交通費	50,000	0
消耗品費	10,000	0
雑 費	10,000	1,890
今期支出合計	930,000	1,510,967
次期繰越金	877,804	1,253,407
合 計	1,807,804	2,764,374

●平成14年度 予算案

1. 収入の部

科 目	金額(円)
平成14年度支部会費第1回分	592,000
平成14年度支部会費第2回分	200,000
支部大会費収入	100,000
雑収入(利息等)	500
今期収入合計	892,500
前期繰越金	1,253,407
合 計	2,145,907

2. 支出の部

科 目	金額(円)
支部大会費	400,000
企画費	300,000
支部ニュース印刷出版費	150,000
選挙管理費	300,000
旅費・交通費	20,000
消耗品費	10,000
雑 費	10,000
今期支出合計	1,190,000
次期繰越金	955,907
合 計	2,145,907

●動物学会関東支部大会後記

大会委員長 菊山 榮

第54回日本動物学会関東支部大会が2002年3月30日早稲田大学国際会議場で開催された。中村正久会員を委員長とする早稲田大学の学会員からのメンバーで構成された準備委員会が準備・運営にあたった。

参加者数は約170名にのぼった。会議場の“井深”ホールで行われた特別講演は「Emeritus Engagements with Endocrinology」というタイトルで、カルフォルニア大学パークレー校のH.A. Bern教授(司会:川島誠一郎会員)によって行われ、巧みな話術が披露された。

次いで一般発表はポスター形式で行われ、発表件数33であった。フロアでの議論が白熱し、時間の都合で1.5時間しか取ってなかったのは悔やまれた。

引き続き行われた総会は山内兄人会員が議長を務めて行われ、内容は本誌に議事録として掲載されると思われる。

公開シンポジウムは「分子の挙動をみる」というタイトルで石渡信一早稲田大学理工学部教授による「生体分子モーターを見て操作する:1分子酵素力学,分子間協調そしてシステム機能構築」(司会:神谷律会員)および御子柴克彦東京大学医科学研究所教授による「細胞Ca²⁺振動をひきおこすIP₃受容体/Ca²⁺チャネル-その発生・分化・神経可塑性における役割-」(司会:東中川徹会員)の二題でいずれも聴衆に強いインパクトを与えるものであった。

懇親会は大隈ガーデンハウスで、3月末に早稲田大学を退職される石居進会員のお話と乾杯の発声で約30分おくれの6時30分にスタートし、飲・食欲も旺盛な若者にまじって、日本動物学会本部事務局の永井裕子さんや渡辺浩会員をはじめ所謂「なつかしい顔ぶれ」も多数見られ、和やかなうちに8時に散会した。

しかし、その後、早稲田大学の生物学教室恒例の花見の宴に合流した方々もおられたようです。

ともあれ悪化が予想された天候が良い方に傾き、比較的順調に終了でき、大会準備委員会のメンバーの努力に心から感謝したい。

●動物学会関東支部大会感想記「第54回動物学会関東支部大会に参加して」

井口智文(宇都宮大学・教育学部)

2002年3月30日、早稲田大学国際会議場において第54回動物学会関東支部大会が、前日までの雨も上がり例年に比べ暖かな中で開催されました。大会は11時より、H. A. Bern先生(カリフォルニア大パークレー校)の特別講演からスタートしました。余談になりますが、この開始時間は私の様に遠方から当日会場入りしようと考えている者にとっては大変助かります。Bern先生による講演は日本人研究者の名前が数多く挙がり、あらためて先生と多くの日本人研究者に接点があることを再確認出来る内容のものでした。

そして、午後1時よりポスター発表による一般講演が開始され、各ポスターの前で熱心な議論が行われ、発表者と直接に意見交換が出来るというポスター発表のメリットが遺憾なく発揮されていました。また、例年の傾向でもあると思いますが、大学院生を含む学生の発表が多数見受けられました。学生にとって自分のやってきたことを他の研究者に披露しコメントをもらうための良い機会であり、来年以降も多くの学生がこの場で発表するこ

とを期待します。その様な教育的な観点を拡大して考えると、昨年行われた高校生による発表がなかったのは少々残念に感じました。一般発表に続いて関東支部総会が行われましたが、率直な感想として若手の方々の参加が少なかったのが残念でした。しかし、私自身も多くの学会で総会の類はパスする傾向にあるため、「学会は学会員によって運営されていることを今一度思い出すべきではないか」と、反省した次第です。総会の後、石渡先生（早稲田大学理工学部）及び御子柴先生（東大医科学研究所）の両先生による公開シンポジウムが開催されましたが、研究内容はもちろんのこと両先生の研究に対する熱意を感じ取ることが出来、私にとって大いに勉強になるものでした。以上のように大会を簡単に振り返り、今大会に対する感想をまとめると「参加した方々それぞれにとって実りある大会であった」というものになります。その一方で、関東支部大会のさらなる発展のために、大会形式の新たな形の模索をはじめても良い時期なのかもしれないという感想も持ったことを最後に付け加えさせていただきます。

●選挙について（選挙管理委員会）

本年度は評議員と支部委員の選挙の年に当たります。現在選挙管理委員が準備を進めています。投票は7月の予定です。

支部委員については、その構成を多様化するための一助として、支部規定細則に従い、選挙に先立って関東支部会員（以下会員）から立候補（自薦）と候補者の推薦（他薦）を受け付け、そのリストを投票用紙とともに全会員に配布して投票の際の参考にしていただいております。手続きおよび注意事項は下記の通りです。

- 1) 管理一切は選挙管理委員会が責任を負います。
- 2) 配布するリストはあくまで参考で、リストの会員を含むすべての会員に投票できます。
- 3) 各会員は、立候補するか、または推薦を受けることができます。ただし次の5人の方々は連続三選禁止条項（支部規定第5条）に該当しますので、今回は被選挙権がありません。

岡 良隆・上村慎治・小林哲也・菅原 隆・松田良一

- 4) 推薦の場合は、あらかじめ被推薦者本人の同意を得て、推薦人3名（2名以下、4名以上は不可）が連名で1名のみを推薦できます。
- 5) 推薦者となれるのは1回のみです。すなわち、同じ人が2人以上の推薦人となることはできません。被推

薦者および立候補者が他の人の推薦人となることはできません。

- 6) 立候補および推薦に当たっては、次の形式で書類を作製し、下記の定められた期間内に選挙管理委員会に届け出て下さい。届け出は、郵送、Fax、E-mail いずれでも結構です。
 - a. 立候補の場合は、「立候補」と記して本人氏名と所属、連絡先と電話番号（Fax、E-mailアドレスがあればそれも）を記入する。
 - b. 推薦の場合は、「推薦」と記して被推薦者名および推薦人3名の氏名と所属を連記する。また、推薦人のうち代表者1名の連絡先と電話番号（Fax、E-mail アドレスがあればそれも）を記入する。
- 7) 選挙管理委員会が、立候補および推薦の届けを到着順に整理し、立候補者と被推薦者に確認を行った上で、その氏名・所属（推薦人も記載）を投票用紙送付の際に同封して公表します。ただし、3)~6)の条件を満たしていない場合は除外し、届け出の後の取り消しと変更は一切認めないことにします。
- 8) 立候補および推薦を届け出たあとで1週間が経過しても連絡がない場合は、下記の選挙管理委員にお問い合わせ下さい。

不明の点は、下記選挙管理委員会または関東支部支部長（中村正久 〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部中村研究室）までお問い合わせ下さい。

受付期間：2002年6月1日(土) - 6月20日(木)

届け出の宛先および問い合わせ先：

〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1

上智大学生命科学研究所

(社)日本動物学会関東支部選挙管理委員会

井内一郎

Tel/Fax: 03-3238-3393

E-mail: i-iuchi@hoffman.cc.sophia.ac.jp

選挙管理委員長

井内一郎（上智大・生命研）

選挙管理委員

千葉篤彦（上智大・生命研）

長谷部孝（早稲田大・教育・生物）

藤原宏子（日本女子大・理・物質生物）

「生物科学ニュース」の購読・ご利用のすすめ

近年の生命科学の進歩はめざましく、新しい分野が次々と開かれ、その結果として新しい学会や雑誌が次々と設立・刊行されると共に、日々各種の会合がめまぐるしく催されております。もはや個々の学会や個人がこれらの情報を処理していける時期ではなくなってきております。

この時代に対処してゆくために「生物科学ニュース」は日本動物学会および日本植物学会の和文情報誌として、会員への情報伝達、広報はもちろん、生物学に関連した学会・国際会議・シンポジウム・講演会・研修会などの開催予定とプログラム、人事・研究助成金などの公募記事、書評、関連分野の動向などを中心に、幅広く生物科学関連ニュースをもりこみ編集・刊行されています。

「生物科学ニュース」は両学会の約5,000名の会員に配布されていますが、会員以外の個人の方あるいは機関でもご購入いただけます。この機会にぜひご購入くださいますようお願い申し上げます。ご送付先、お電話番号など明記のうえ下記あてハガキ、またはファックスなど書面でお申し込みくだされば折り返し請求書・振込用紙などお送り申し上げます。

記

「生物科学ニュース」 月刊（毎月20日発行）／B5判／毎号平均22頁

編集・発行 生物科学ニュース編集委員会（日本動物学会・日本植物学会）

年間購読料 3,100円（税込・送料無料）

購読料は原則として年間前払いをお願いしております。

ご希望の月号からご購入いただけますが、1月号から12月号までの12冊を一期間としますため、途中月号からのご購入の場合は初年度のみ月割の購読料となります（下の例示のとおり）。以降は購読中止のご連絡をいただかない限り翌年に自動継続し1月号から12月号のサイクルで更新させていただきます。

機関購読の場合はご送付先にご担当の個人名をお入れください。

お支払いに際し特定の書類が必要の場合は作成いたしますのでご連絡ください。

見本誌ご希望の場合はお送りいたします。

すでに購読ご登録の場合はご容赦下さい。

本年度購読料 $3,100円 \times 9 / 12 = 2,325円$

次年度購読料 3,100円（年間購読料が改定された場合は別途ご案内します）

〒113-0021 東京都文京区本駒込 5 - 16 - 9

財団法人 日本学会事務センター 事業部

「生物科学ニュース」係

TEL . 03-5814-5811 FAX . 03-5814-5822

関連記事掲載を御希望の方は、最新の「生物科学ニュース」を参照の上、横書き原稿用紙（1行25字が望ましい）に記事を簡潔にまとめ、下記の編集委員会宛にお送り下さい。編集委員会が関連記事と認めた場合には無料で掲載させていただきますが、様式の統一のため記事の手直しを行なうことがあります。なお、編集委員会では記事の要約表現の改訂を独自に行なうことがあります。また学会や研究会が独自の記事を出したい時には、その都度必要なスペース（“ひろば”欄）を買い切ることができます。“ひろば”の校正は買い切られた方をお願い致します。

◦ 料金：1 ページ （2,000字） 40,000円

1/2ページ （1,000字） 20,000円

1/4ページ （ 500字） 10,000円

◦ 記事送付先：〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集委員会

◦ 原稿をお送り下さる場合、以下の点にご留意下さい。

1) 生物科学ニュースに原稿をお送り下さる場合は、フロッピーディスク（3.5インチ、テキストファイル）とプリントアウトしたものをお送り下さい。書式等は生物科学ニュース最近号をご参照下さい。

2) 現在のところ、書評欄への投稿は受けつけておりません。

3) 掲載原稿の締切日（必着）は以下の通りです。

No.368 2002年8月号 2002年6月17日（月）

No.369 2002年9月号 2002年7月15日（月）

No.370 2002年10月号 2002年8月12日（月）

No.371 2002年11月号 2002年9月16日（月）

No.372 2002年12月号 2002年10月14日（月）

No.373 2003年1月号 2002年11月11日（月）

No.374 2003年2月号 2002年12月2日（月）

No.375 2003年3月号 2003年1月13日（月）

運営委員会

社団法人 日本動物学会 岡 良隆・成瀬 清・吉国通庸 (<http://www.soc.nii.ac.jp/zsj/>)

社団法人 日本植物学会 関本弘之・佐藤 忍・河野重行 (<http://bsj.or.jp/>)

編集委員会

社団法人 日本植物学会 伊藤正樹・梶田 忠・中里(岡本)朱根・矢部尚登・佐藤 忍(幹事)

社団法人 日本動物学会 久保英夫・鈴木 忠・千葉和義・吉田 学・成瀬 清(幹事)

発 行 (社)日本動物学会・(社)日本植物学会 生物科学ニュース編集委員会 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2
東真ビル / FAX 03-3814-5352

印 刷 昭和情報プロセス株式会社 〒108-0073 東京都港区三田5-14-3 TEL 03-3452-8451

購読申込:(財)日本学会事務センター事業部 / 〒113-0021 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21
TEL 03-5814-5811 FAX 03-5814-5822
